



親が子どもにできること

三人の子どもたちを育てた。子どもたちがまだ幼い頃、この先続く子育てが、途方もなく長く続くような気がしていた。しかし、終わってみれば、あつという間の時間だった。結婚生活も三十年を過ぎ、現在は、また、妻との二人暮らしに戻った。当たり前のことだが、子どもたちは同じように育てたつもりでも三者三様に育つ。それが、子育ての面白いところなのだろう。

子育てを終え、今一度、考えてみる。親が子どもにできることって、何だろうか。

ここで、子どもたちの歩んだ道を振り返ってみる。一番上の息子は、教師になった。教師という職業を選んだのは、自然な流れだったように思う。子ども時代からリーダーシップ力はピカイチで、年下の子の扱いも上手かった。もちろん、担任をしてくださった素敵な先生方との出会いがきっかけだったことは確かだけれど、父親の背中を見て育ったことが一番大きかったと思う。しかし、これだけ勉強嫌いで横着者が、よくぞ教師になったものだと思う。

二番目の娘は、高校一年生までに進路を固めたように思う。まずは、母親と話を密にしていた。職種は違うが、母親の仕事に対する考え方、その姿を追いかけたのだと思う。看護師への道を決めると、もう迷いはなかった。大学に進学してほしいという高校の先生たちの願いもきっぱり断った。看護学校を受験し、その三年後、看護師になった。

三番目の息子、これが一番やんちゃ。でも、一番かわいがられている。なにせ末っ子は、早く大きくなることをあまり望まれている。末っ子の特権だろう。

小中とサッカー一筋で、この子は、このままサッカーで進学するのだろうかと思っていた。しかし、突然、「俺、サッカーやめるわ。」の一言。将来、自分が何をしたいのか明確な目標がなかったのだから。自分の目標を定めることがいかに大切なのか、そのことを、親として実感させられた。サッカー漬けで、ろくに勉強もしていない本人の進路に、数多くの選択肢は無い。選んだ先は、本人が望む場所ではなかった。しかし、転機は訪れる。それは、怪我であった。長年サッカーで酷使した膝の半月板を損傷し、六時間以上に及ぶ手術。術後のリハビリで知った理学療法士という職業。好きなサッカーができなくなっても、裏でそのサッカーを支えることができることに気がついた。理学療法士という道を後押しし、理学療法士に関する諸々の情報を集め、受験スケジュールを組んだ母親。進学校には進んでいない息子だが、一念発起し、大学進学を目指すことになる。そして、父は、それにもなう経済的援助。そんな自分のために動いてくれる二人の姿を見ていたのは、確かなことである。その後、無事、希望大学に合格し、ただ今、理学療法士に向かって、勉強まっしぐらである。

鏡野町生徒指導推進連絡協議会

香々美小学校 牧野 学



そうそう、いいねえ



上手だねえ。いい感じ。

のびのびひろば

楽しいよ!河内大樹先生と造形遊び



へえー
そうするんだあ



どんな色にしようかなあ...



色を付けるのが楽しかったです

郷幼稚園では、毎月、鏡野町の「地域おこし協力隊」河内大樹先生に来ていただき「造形遊び」を楽しんでいます。

8人のこども芸術家たちは、毎回創造性豊かな作品を創り出します。9月のテーマは運動会で着るTシャツの色染め。

運動会のテーマが「森のアイドル!いけいけGOキッズ!!」

なので、みんなでアイドルに変身するためのキュートなTシャツづくりを目指しました。さてさてどんな作品に仕上がるでしょう。わくわくいっぱい造形活動、これからもこども芸術家たちは、数々の芸術作品を生み出していくことでしょう。

(郷幼稚園)